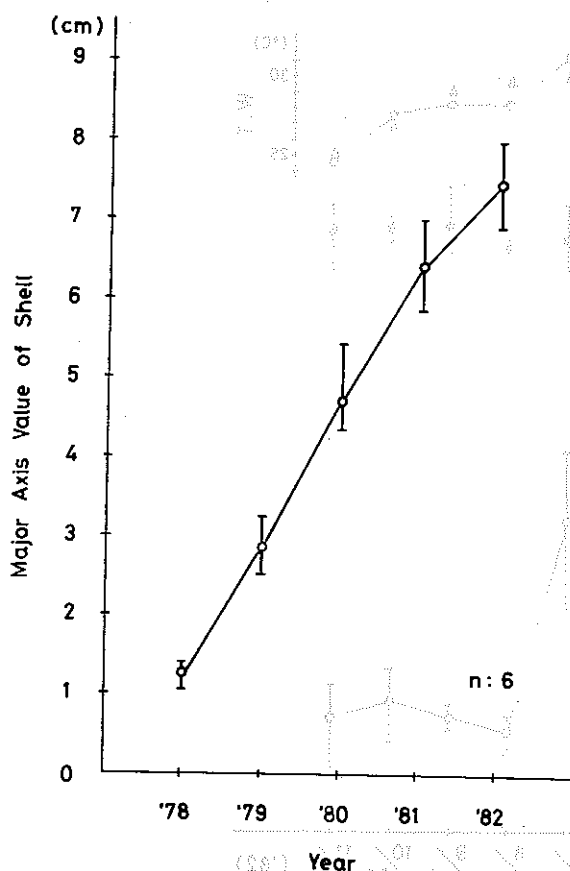


生殖巣部湿重量比は5月の調査では、 $29.7 \pm 10.4\%$ を示した。個別別の生殖巣湿重量比は $19.9 \sim 46.0\%$ と大きな巾があった。6月は $46.0 \pm 4.8\%$ となり、7月には、 $43.9 \pm 8.3\%$ と、両月共その平均は40%を越えるまで増加し、個別別でも両月共、50%を越える個体が出現した。しかしながら、8月の調査では、 $17.4 \pm 1.7\%$ （個別別： $14.6\% \sim 19.3\%$ ）と大巾に減少した。その後9月には $18.9 \pm 1.1\%$ 、10月には $21.0 \pm 3.7\%$ と微増し、11月には $19.0 \pm 2.3\%$ にとどまり、回復はしなかった。

今年度は6月が最も生殖巣部湿重量比が高く、大巾減少期には8月に出現した。昨年度のその時期は9月であった。

調査時の調査時点での水温と水試前定点での月平均水温とはそれ程差はなかった。また、調査個体の大きさは殻長 $7.10 \sim 9.46$ cmで平均 8.05 ± 0.56 cmで、 7.00 cm以上の個体であった。

調査に関連し、今年度の気象の概況を述べる。5月7日が梅雨入、6月26日が梅雨明で、例年より雨量の少ない梅雨であった。台風は、9号が7月28～29日に接近し、11号（瞬間最大風速、 $ESE 55.2 m/sec.$ ）が8月9日にこの地を通過した。その後19号が9月下旬に接近した。また天気率は台風接近及び通過時を除いては、6月～10月までは晴率が $5.67 \sim 74.3\%$ と高い率を示し、特に10月には 74.3% と例年になく気候が安定し、年最高晴率の出現月となった。



2. ヒメジャコの成長量調査

方法

川平湾小島の礁原部側のハマサングに穿孔生息したヒメジャコの穿孔生息長径値を継続測定した。測定は潜水観察によっておこなった。

結果

1978年（昭和53年）8月からの継続測定個体は6個体であり、その成長量の平均値と上下巾を図2に示した。

図2 ヒメジャコの成長量
(Major axis value of shell: 穿孔生息長径値)